

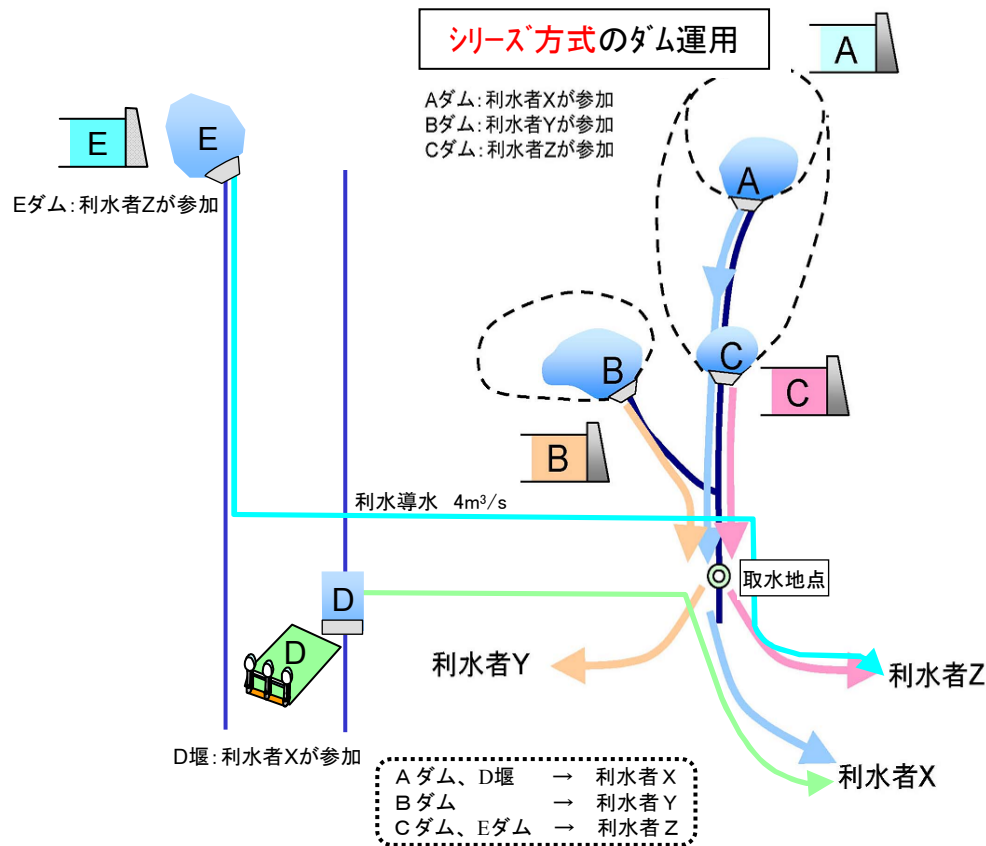
木曾川水系連絡導水路
水系総合運用について

水系総合運用のイメージ図

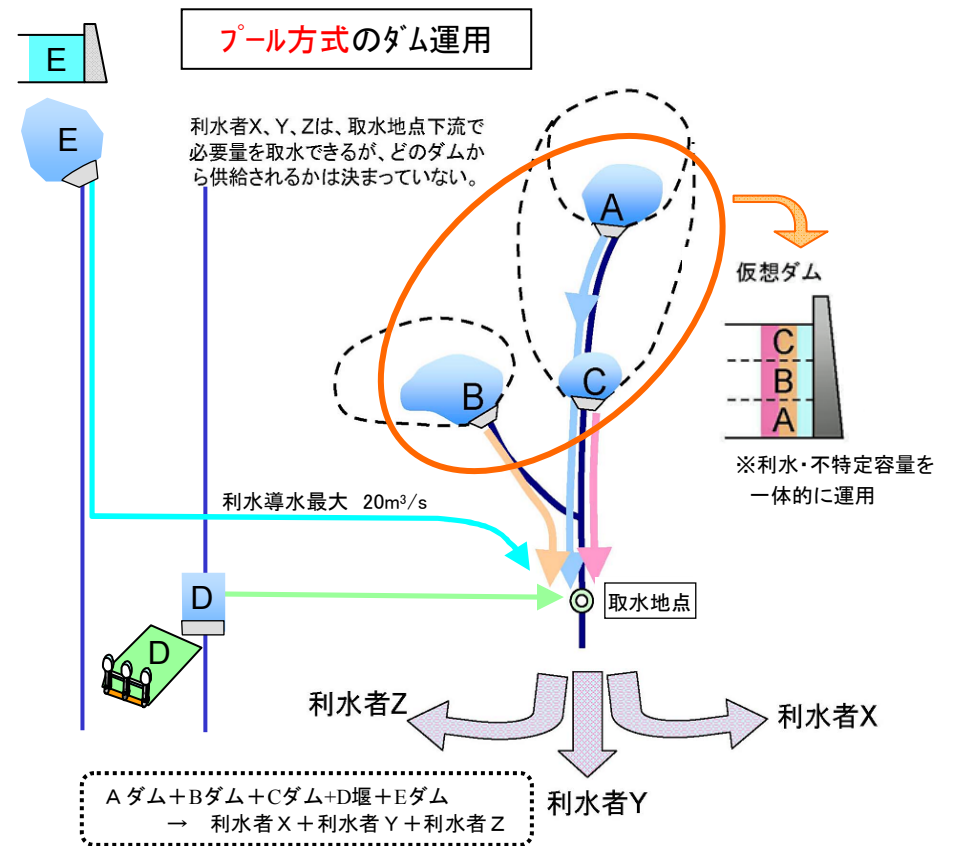
渇水及び異常渇水対策(河川整備計画抜粋)

異常渇水による甚大な渇水被害の最小化を図るため、既存の水資源開発施設や木曾川水系連絡導水路等を最大限に活用する水系全体の総合運用について、関係機関と調整し、その実施に努める。

現行運用



水系総合運用



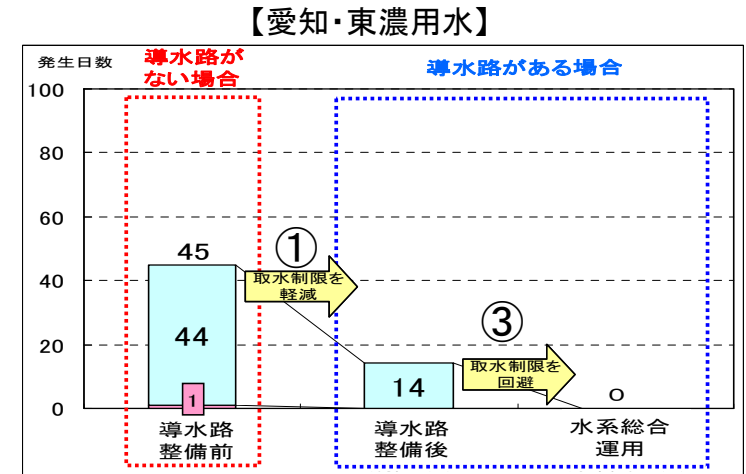
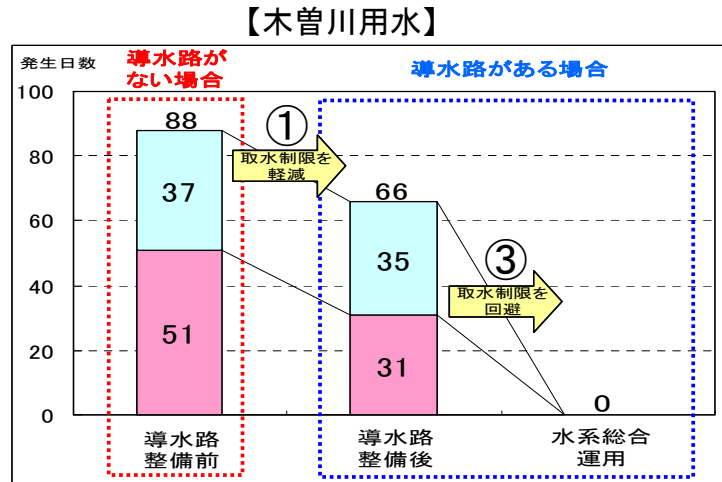
- ・各ダム計画での補給区域のみに補給する。
- ・複数のダムで同一の供給区域に補給する場合はダムの開発順に補給する。

- ・連絡導水路で繋がる徳山ダム及び長良川河口堰の水源を先使いし、木曾川上流ダム群の利水・不特定容量を常時一体的に運用(プール方式)し効率化を図り、木曾川上流ダム群の貯留水を極力温存する。

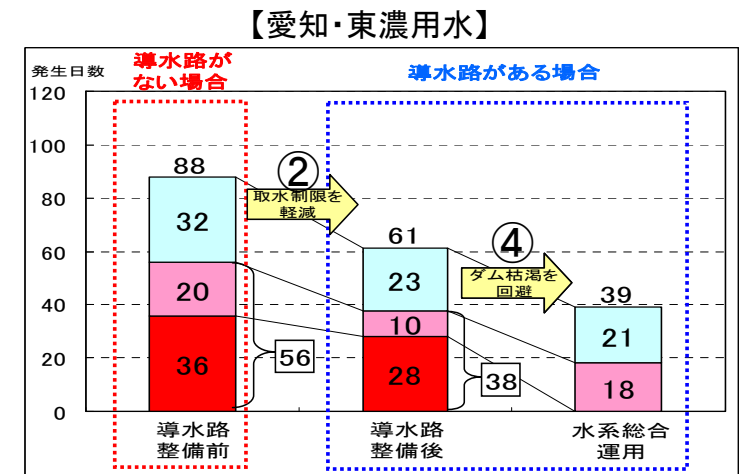
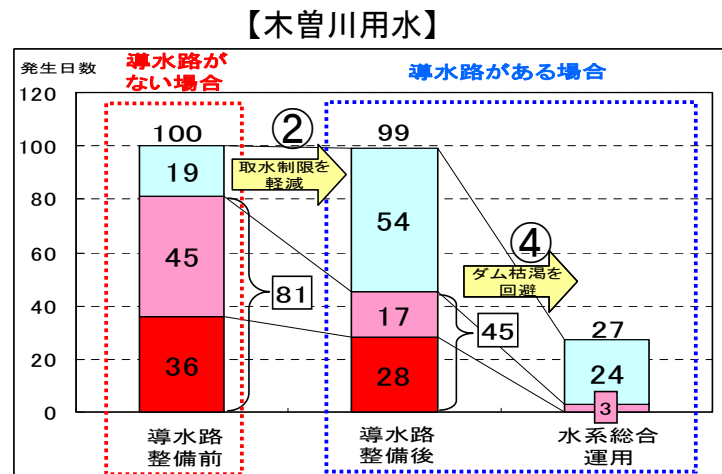
木曽川水系連絡導水路の効果(渇水被害の軽減)の試算

- 実際のダム運用においては、貯水量の減少に伴い取水制限を強化していくが、連絡導水路の完成により、取水制限日数が短縮
- これまでと同様な運用であれば、①10年に1回程度発生する渇水時において、断水を生じるおそれがある35%以上の取水制限日数が短縮
- ②平成6年のような異常渇水時においても、木曽川上流ダム群の枯渇日数が短縮し、断水を生じるおそれがある35%以上の取水制限日数も短縮
- 連絡導水路の完成によって可能となる水系総合運用を行えば、③10年に1回程度発生する渇水では取水制限が不要となり、④平成6年のような異常渇水時においては、木曽川上流ダム群の枯渇は回避

計画規模の渇水の場合
(近年の20年に2番目の
渇水年(昭和62年))



異常渇水の場合
(近年で最大の渇水年
(平成6年))



■ :15%~35%の取水制限 ■ :35%~の取水制限(断水を生じる恐れ) ■ :ダムの枯渇

※昭和62年及び平成6年規模の渇水を対象にシミュレーション